

重要ちしき

トレイルO NOW!

「エリート・トレイルOのためのテクニカル・ガイドライン」から(続き)



IOF
トレイルO委員会
こやま たろう

トレイルOのコントロール設計における国際的な統一的理解・定義については、このほど IOF から「テクニカル・ガイドライン」として示された。国際大会のみならず各国においても基本とされることが推奨されるもので、前号に引き続き、今号でも紹介する。

位置説明のG欄になにも書かない場合は、特徴物の中央(部)にフラッグを設置する。

(注意)トレイルOでの「岩がけ」については、G欄に記入が無い場合はその「根元」を意味する。

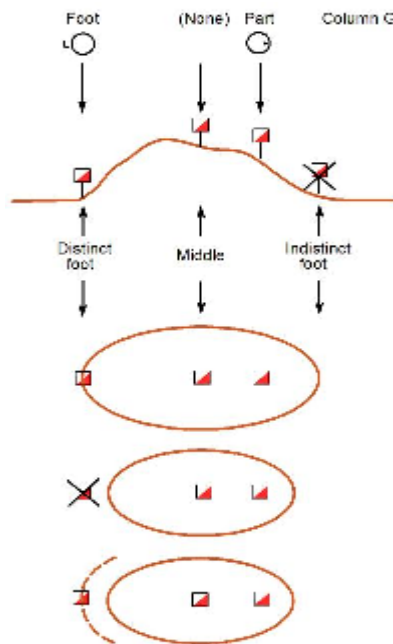
こぶ Hill

コントロール位置説明のG欄に記載が無い場合は、こぶの中心にフラッグを設置する。その際、「中心」が必ずしもこぶの最も高い位置である必要はない。

コントロール位置説明が「部分」の場合は、フラッグの設置場所を明確にするためにこぶの中心と根元からは十分に離すとともに、方位についても混乱を避けるために明確に表現すること。

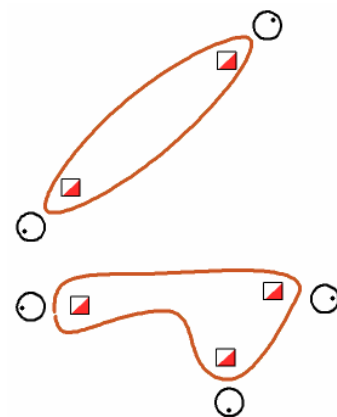
もし等高線が明瞭な根元を表しているときは、位置説明は方位をつけた「根元」として使用できる。

右の下の二つの図の例のように、もしリング状の等高線がこぶ(Hill)の基部を表しておらず、明瞭な基部が少し離れたところにある場合は、補助等高線を描き加えない限りコントロールとしては使用できない。位置説明は補助等高線の描き方によって、「こぶ(Hill)、根元」あるいは「尾根、根元」のどちらかになる。なお、「こぶ」には「側」は使用できない。



次図の最初に示されたような8方位の「部分」が描けないような細長い形のこぶ(Hill)の場合は、北東(NE)および南西(SW)だけが明確に定義が可能で、他の方位は使用できない。

2番目の図例は変則的な形のこぶ(Hill)は中心点が明瞭ではないため、G欄に何も描かずに中心点にフラッグを置くことは推奨できない。「部分」は使える。

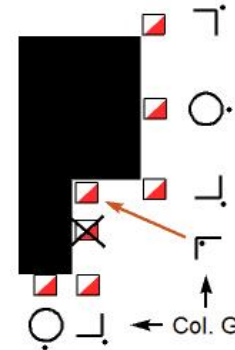


★ガイド・ライン全文は IOF の H P (トレイルO) からダウンロードできます(英文)。★

建物 Building

コントロール・フラッグは、建物の角か、あるいは、角と角からの突出部

分の中心地点に設置する。コントロール位置説明には方角を付して「側」や「角」を用いる。



図において、X印のあるフラッグ位置は、コントロール位置説明では表現できないので課題として使用できない。

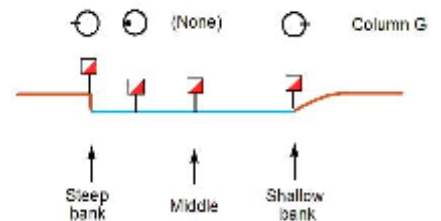
なお、建物の上にせり出している部分は無視される。

重要!

従来からの「ひさし」の張り出し部分からの垂線と、建物本体を使用した課題の出し方は、**全て建物本体のみを主体とした設置方法**となる。「建物、〇〇のかど(〇側)」は、ひさしからの垂線をもって建物を表現するのではなく、建物本体の「かど」となる。したがって角を使った場合は「外側」のみである。(小山注)

水路 Watercourse

コントロール位置説明のG欄に記載が無い場合、フラッグは水路の中央に設置する。



水路の幅が広い場合には、コントロール位置説明に方位をつけた「部分」を用いて設置することが出来る。

「側」は使用できない。(こやま たろう)